

2006 年度

科目名 日本語日本文学特殊講義IVB	対象学科・学年 文学部日文3回生	担当者 東 典幸
授業テーマ 柄谷行人「言葉と悲劇」を読む。		
授業の概要と目標 柄谷行人は日本の現代文学で最も影響力の強い評論家です。彼の講演集「言葉と悲劇」を読みます。柄谷の書くものはどれもとても難しい本で、これはその中でも比較的簡単な方ですが、それでも正直、みなさんには難しすぎるでしょう。そこをできるだけ簡単に解説します。		
評価方法 楽しい授業にはならないでしょう。本格的な内容の講読になる覚悟をしてください。出席するだけでも大変な授業だと思うので、試験もレポートも無し。出席と授業態度のみで評価します。		
テキスト プリントを配布する。	著者	出版社
参考書 言葉と悲劇	著者 柄谷行人	出版社 講談社学術文庫
授業スケジュール・内容 1、 バフチンとウィトゲンシュタイン 2、 漱石の多様性ー『こゝろ』をめぐって 3、 言葉と悲劇 4、 ドストエフスキーの幾何学 5、 江戸の注釈学と現在 6、 「理」の批判ー日本思想におけるプレモダンとポストモダン 7、 日本的「自然」について 8、 世界宗教について 9、 スピノザの「無限」 10、政治、あるいは批評としての広告 11、単独性と個別性について 12、ファシズムの問題ード・マン/ハイデガー/西田幾多郎 13、ポストモダンにおける「主体」の問題 14、固有名をめぐって 15、安吾その可能性の中心		